

三鷹市立高山小学校 令和5年度【 音楽 】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ◎鍵盤ハーモニカの演奏については、感染症を予防しながら、練習することができた。音楽会に向けて、練習を重ねた結果、上手に演奏できるようになった。 ◎タンブリン、鈴、木琴など、打楽器に触れ演奏した。リズムよく演奏できない児童には、個別に指導をした。 ◎リズムに乗って音楽活動を行うことができるように、身体運動によるリズム学習の時間を取り入れ、能力差に応じて個別指導を行った。 ◎感染症を予防しながら、歌の練習も行い、歌う楽しさを味わうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎鍵盤ハーモニカについては、早期に学習に取り入れて毎時間使い方や息の切り方について指導を行っている。運指についても指導しているが、一本の指で押さえてしまったり指がしなやかに動かなかったり、息の切り方についても引き続き指導が必要である。 ◎体を使ったリズム遊びなどを毎回の授業で取り入れていることから、リズムに親しみをもち、模範とするリズムをよく聴く習慣ができていく。実際に楽器を使う際には、音を鳴らすと、鳴らさないように気を付けることと区別や方法がまだ習得できていない児童もいる。 ◎鑑賞では、曲想から感じ取ったことを発言できるが、言語化することがうまくできない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎運指を確実に覚えるよう繰り返し指導し、それでも覚えられない児童には指をつけるなどの工夫をする。簡単な楽曲も繰り返し練習させて自信を付け、指くぐりなどの技法に取り組みできるようにする。 ◎体を使ったリズム遊びに継続的に取り組み、音を出したり、止めたりすることへの集中力を高める。楽器を持った時の姿勢や手の添え方などを指導し、音の鳴らし方と静止の仕方を学ぶ。楽器の仕組みについて理解し、どのようにしたら音が鳴らないかも理解できるようにする。 ◎色々な音や曲に親しみ、楽器それぞれの音の特徴などを意識的に言語化することで、曲を聴いた時にどのような楽器が使われているかや曲調への感想が導き出せるようにする。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ◎「口を大きく開ける」「元気な声を出す」「曲調に合わせた歌い方」等を指導し、表現の幅が広がってきた。 ◎様々なジャンルの曲を鑑賞する中で多くの表現があることを知り、音楽を楽しんで聴くことができた。 ◎運指の基礎練習などを常時活動として取り入れ、簡単な曲を演奏することができるようになった。鍵盤の位置が分からない児童にはシールを使用して視覚的支援も行うことができた。 ◎楽譜を見ながらリズム打ちをするなどしてリズム譜や楽譜が読めるようになってきた。音符の長さにも着目し、鍵盤で演奏できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎リズムづくりには積極的に取り組む児童が多い。 ◎合奏は回を重ねることに友達と息を合わせて演奏することができるようになっている。 ◎マスクを取って口を大きくあけて歌う経験が少ないため、声がどうしても小さくなってしまっている。 ◎様々なジャンルの曲を鑑賞し楽しむことができる児童が多いが、身体表現や言葉で表現することは苦手な児童も見られる。 ◎キーボードでの鍵盤練習が多かったため、鍵盤ハーモニカのタンギングが苦手な児童が多い。また、クラスにより運指の技能にばらつきが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎音符の学習と関連付けて、さまざまな楽器でリズム作りの経験をさせる。 ◎学期ごとに合奏に取り組み、パートごとの音の重なりや全体でのタイミングを合わせるなどの経験を積ませる。合奏は少人数からクラス全体へと少しずつ人数を増やすことにより、来年度の音楽会に繋げていく。 ◎毎時間運指の基礎練習・タンギング練習などを取り入れ、簡単な曲を演奏することができるようにする。鍵盤の位置が分からない児童にはシールを使用して視覚的支援も行う。 ◎色々な音や曲に親しみ、楽器それぞれの音の特徴などを意識的に言語化することで、曲を聴いた時にどのような楽器が使われているかや曲調への感想が導き出せるようにする。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ◎曲の特徴を捉えた表現を工夫し、思いや意図をもって歌えるように指導できた。 ◎呼吸や発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌えるように指導できた。 ◎個人差が見られる鍵盤楽器などの技能の個人指導を粘り強く行うことができた。 ◎リコーダーの基本的なタンギングが定着できるよう、段階的な練習方法を取り入れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎音楽の学習に意欲的に楽しんで取り組む姿が見られる。 ◎口を大きく開けて歌う姿が見られるが、しっかりと声を出して歌うことが課題である。 ◎リコーダーは、ソ・ラ・シの3音を学習したが、タンギングの定着が今後の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎毎時間運指の基礎練習・タンギング練習などを取り入れ、曲を演奏することができるようになる。 ◎色々な音や曲に親しみ、楽器それぞれの音の特徴などを意識的に言語化する。 ◎曲を聴いた時にどのような楽器が使われているかや曲調への感想が導き出せるようにする。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ◎思ったことや感じたことを言葉で表すことを心がけて指導したことで、曲の特徴を捉えて表現を工夫しようとする姿勢がみられてきた。 ◎鍵盤ハーモニカやリコーダーなどの器楽学習では、階名読みを繰り返し行うことや個人練習の時間を確保することで、自分なりの表現を目指す態度が身に付いてきた。 ◎発表の機会を取り入れることで、意欲的に練習に取り組んだり、演奏する楽しさや達成感を味わうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎歌うことを楽しみ、表情よく歌っている児童がいる一方、口の開け方や息の吸い方が不十分であり、全体としては表現力が弱く感じることが多い。 ◎階名読みやリズム読みについてはよく身に付けている児童が多く取り掛かりは早いですが、みんなで合わせる気持ちよさや楽しさをもっと感じさせていくことが課題である。 ◎リコーダーの息遣いやタンギングなど、正しい奏法を身に付けている児童が多いので、引き続き繰り返し練習などで定着を図り、高学年に引き継いでいくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎歌唱においては、発声を意識させる声掛けを意識して行い、一人ひとりの歌う気持ちを高めて全体の表現力につながるようにしていく。 ◎器楽においては、全体や少人数で音を合わせて聴き合う活動を多く取り入れ、楽器の音が合ったときのおもしろさをたくさん感じさせるようにしていく。 ◎リコーダーの正しい奏法をより身に付けていくために、音色に着目し、息遣いを工夫して曲に合った表現に結び付けられるよう指導していく。 ◎題材を通して学んだことが、次の学習にどう関連付いたり、生かされたりしているかなどの気づきや振り返りをワークシートに丁寧に記入できるようにしていく。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ◎曲の特徴を捉え、言葉で表すことを多く行ったことで、曲のよみおもしろさを引き出し、表現の工夫につなげていくことができた。 ◎合唱の経験を多く積んできたことで、声をしっかりと出して歌う心地よさを感じることができた。 ◎発表の機会を取り入れることで、意欲的に練習に取り組んだり、演奏する楽しさや達成感を味わうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎歌うことを楽しみ、クラス全体で声を合わせて歌う気持ちよさを感じて表現しようとしている児童が多い。より豊かな響きで歌えるようにしていくことが課題である。 ◎器楽においては、鍵盤ハーモニカにもリコーダーにも意欲的に取り組み、正しい奏法での演奏技能が身に付いている児童が多いが、個人差があり苦学意識をもっている児童も少なからずいる。 ◎曲に対する思いや感じ方を言葉で表すことが比較的できているので、表現に結び付けられるようにしていくことがこれからの課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎運曲や導入の仕方を工夫し、曲に対する最初のつかみを強めることで、より豊かな表現につなげていけるようにしていく。 ◎器楽においては、個人練習の時間と教え合いの時間のバランスをとりながら練習を進めることで、クラスみんなで表現を楽しめるようにしていく。 ◎リコーダーの正しい奏法をより身に付けていくために、音色に着目し、息遣いを工夫して曲に合った表現に結び付けられるよう指導していく。 ◎題材を通して学んだことが、次の学習にどう関連付いたり、生かされたりしているかなどの気づきや振り返りをワークシートに丁寧に記入できるようにしていく。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ◎スモールステップの学習を積み重ねてきたことで、音楽を理解して自分で表現する力を身に付けることができてきた。 ◎音を比べながら演奏することで、音色に着目した演奏を意識することができるようになった。 ◎合唱の経験を多く積んできたことで、声をしっかりと出して歌う心地よさを感じることができている。 ◎発表の機会を取り入れることで、意欲的に練習に取り組んだり、演奏する楽しさや達成感を味わうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎歌うことを楽しみ、クラス全体で声を合わせて歌う気持ちよさを感じて表現しようとしている児童が多い。ソプラノとアルトのバランスに気を配りながら合唱しようとしている姿がよく見られ、ハーモニーの美しさに着目し、より豊かな響きで歌えるようにしていくことが今後の課題である。 ◎グループアンサンブル活動では、友達と協力してグループ活動を進めることができ、思いや意図に合った音色を自分たちで工夫してつくりあげよう、とする態度が多くみられたので、さらに伸ばしていけるようにする。 ◎曲に対する思いや感じ方を言葉で表すことがかなりできているので、表現により結び付けられるようにしていくことがこれからの課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎互いの表現を聴き合い、感じたことを伝え合う活動を繰り返すことで、パートのバランスに着目し、心地よい表現を追求できるように指導していく。 ◎少人数のアンサンブルを進めることで、一人ひとりの音の重要性を確かめ、自分なりの表現の仕方ができるようになるようにしていく。 ◎学年合同の演奏を体験することで、大人で演奏する迫力や、チャレンジする面白さ、またそれぞれが役割を果たすことで一つの演奏をつくり上げる一体感を味わえるような機会を設ける。 ◎題材を通して学んだことが、次の学習にどう関連付いたり、生かされたりしているかなどの気づきや振り返りをワークシートに丁寧に記入できるようにしていく。